

伊丹福音ルーテル教会 顕現後第五主日礼拝のしおり

2022年2月6日

前奏

招きのことば：詩編 138 編 1-3, 7-8 節

【ダビデの詩】 わたしは心を尽くして感謝し 神の御前でほめ歌をうたいます。

聖なる神殿に向かってひれ伏し あなたの慈しみとまことのゆえに 御名に感謝をささげます。

その御名のすべてにまさって あなたは仰せを大いなるものとされました。

呼び求めるわたしに答え あなたは魂に力を与え 解き放ってくださいました。・・・

わたしが苦難の中を歩いているときにも 敵の怒りに遭っているときにも わたしに命を得させてください。御手を遣わし、右の御手でお救いください。

主はわたしのために すべてを成し遂げてくださいます。

主よ、あなたの慈しみが とこしえにありますように。御手の業をどうか放さないでください。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは自分の考えや経験をもとにしてものごとを判断します。そしてその力が育つように努めます。しかし、正しいと思うことがうまくいかないとき、私たちは何とか解決しようと無理な力をいれてしまいます。神様はそのとき、握りしめた私たちの手のひらを柔らかく開いてくださり、神様のみ手にゆだねて、神様のお考えを優先することを学ばせてくださいます。今朝もみ言葉を聞いて神様のみ旨に従ってまいります。あなたは救い主イエス様をお送りくださって私たちの罪を赦し、あなたの子どもとしてくださいました。どうぞあなたの御心にふさわしく私たちを自由にお用いください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：第1コリント 15章 1-11節

兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受け入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。どんな言葉でわたしが福音を告げ知らせたか、しっかり覚えていけば、あなたがたはこの福音によって救われます。さもないと、あなたがたが信じたこと自体が、無駄になってしまうでしょう。最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたにしろ、大部分は今なお生き残っています。次いで、ヤコブに現れ、その後すべての使徒に現れ、そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました。わたしは、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。神の恵みによって今日のわたしがいるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。とにかく、わたしにしても彼らにしても、このように宣べ伝えているのですし、あなたがたはこのように信じたのでした。

福音書朗読：ルカによる福音書 5章 1-11節

イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。イエスは、二そらの舟が岸にあるのを御覧になった。漁師たちは、舟から上が

って網を洗っていた。そこでイエスは、そのうちの一そうであるシモンの持ち舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして、腰を下ろして舟から群衆に教え始められた。話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」と言われた。シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と答えた。そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい魚がかり、網が破れそうになった。そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。とれた魚にシモンも一緒にいた者も皆驚いたからである。シモンの仲間、ゼバダイの子のヤコブもヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。

讚美歌 225 番

- 1 すべての人に 宣べ伝えよ、神のたまえる みおとずれを
天(あめ)なる父は み子をくだし 救いの道を ひらきませり
- 2 あまねく宣べよ、よき知らせを まことの幸(さち)を 求めつつも
むなしきものに 誘われゆく 世のはらからに 宣べ伝えよ
- 3 十字架のうえに 死にたまえる み子こそ永久(とわ)の 救いなれや
神のたまえる この知らせを、地の果てまでも 告げひろめよ **アーメン**

説教：「人間をとる漁師」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様は私たちに働きかけてふたつのことをして下さいます。イエス様は私たちが罪びとであることを示して悔い改めに導いて、罪を赦して下さいます。さらにイエス様は、私たちに新しい使命に導いて下さいます。ペテロは漁師でしたが、ある日イエス様が出会ってくださったとき、「わたしは罪深い者です」とイエス様の足元にひれ伏しました。イエス様はペテロにこれからあなたは人々を生け捕りにするようになります、と言われました。

その日は漁師ペテロには悲しい残念な日でした。いつものようにゲネサレト湖で兄弟アンデレと夜通し舟に乗って魚の漁をしました。しかし何もとれませんでした。一緒に漁をしていたヤコブとヨハネの兄弟の舟も同じだったのでしょう。仕事がうまくいかない日も、くたくたに疲れているのに、その日の片づけと翌日の働きのための用意はしておかなければなりません。彼らは舟二そうを岸によせ、漁で傷んだ網を手洗いして繕っていました。

そこにイエス様が来られました。そして群衆はイエス様がゲネサレト湖畔にいるのをみつけて、お話を聞くために押し寄せてきました。イエス様は、そこで網を繕っていたシモン・ペテロに助けを求めました。シモンは弟子とされたときペテロと呼ばれるようになりました。少し前にイエス様はシモンの家を訪ねて、シモンのしゅうとめの高熱の病気を治してあげました。イエス様はペテロの舟に乗せてもらって少し漕ぎ出し、舟から浜辺の群衆にお話をなさいました。

お話がおわると、イエス様はペテロたちに沖で漁をするように命じました。ペテロには理解できませんでした。イエス様にお断りをして、早く陸にあがって途中だった舟の片付けをしたい気持ちもあったのではないのでしょうか。まず、舟を沖に漕ぎ出して漁をすること。浅瀬での投げ網漁をしていた彼らにとっては、沖では魚が網の下から逃げてしまいます。これは漁の基本がわかっていない愚かな指示です。漁は魚が水面近くにいる夜の間にするもので、明るい昼間は警戒して深く潜っています。投網のための網ではそこまでとどかないでしょう。そして何よりも、前の晩夜通し働いて何もとれなかったので疲れています。その網を洗っていたところでした。網を濡すとまたやりなおさなければなりません。プロの漁師がだめだったのに、素人のイエス様に言われて沖で昼間に網をおろしたら笑われます。

イエス様のいわれることは、常識にも、知恵にも、経験にも反していました。ペテロは当然イエス様に昨晚の経験を話しました。では、イエス様に、お言葉を返すようですが、と断ったでしょうか。いえ、ペテロは驚くべき答えをしました。「しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう。」ペテロはイエス様が舟から浜辺の群衆に語っていたことばに、一番近いところで耳を傾けていたのでしょうか。このかたは偉大な教師だな、と気づいていました。だから、言葉に力のあるイエス様がおっしゃるのだから、従ってみますと答えました。

ペテロとアンデレは驚きました。前の夜は何もとれず、からっぽで何の役にも立たずに悲しく洗っていた網に、今目の前でいっぱい魚がかかって破れそうになっています。とっさにペテロは岸にいたもう一そうの舟のふたりに助けを求め、二そうの舟はともに沈みそうになるほどの魚でいっぱいになりました。このときシモン・ペテロはイエス様が単なるよいお話をなさる先生ではなく、主であること、神様から遣わされた救い主であることに目が開かれました。自分はそうともしらずまるで対等の存在のようにお話をしていた。何ということだ。「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者です」とイエス様の足元に倒れこんで言いました。

私たちのために人になってくださった神の御子イエス様は、私たちのところに来てくださいます。そして私たちの祈りを聞き、私たちを守り支えてくださいます。私たちも心を許してイエス様とともに安心して歩みます。いただいた約束のみ言葉に信頼して、ときには自分の力や知恵や経験を超えた信仰の冒険もします。そんなときペテロは気づきました。私たちの友となっていて一緒に歩んでくださっているイエス様は神様から遣わされた救い主です。自分は聖なるイエス様の前に、イエス様が威圧感を感じさせずへりくだって同じ立場にいてくださるのをいいことに、対等とまでいかなくとも、ふさわしい恐れを持たずに、いわば馴れ馴れしく接していた

ことに目が開かれました。神の御子イエス様とともにいるのは普通のことではありません。恐れ多いことです。信仰の目が開かれたペテロはイエス様の膝の前にひれ伏しました。

自分中心でわがままな罪の奴隷になっている私たちを、イエス様は生け捕りにして救い出すために人となって十字架にかかってくださいました。それは私たちを作り、私たちを大切にしてくださいる神様の子どもとして、私たちがいきいきと本来の自分のいのちを生きるためです。イエス様は救い主として、私たちを罪と死と悪魔の力から救い出してくださいます。私たちはみ言葉を聞いて悔い改め、イエス様に信仰の目が開かれます。洗礼によってそのイエス様とひとつとされて神の子どもとされます。聖餐にあずかって神様が私のかわりに裂かれたイエス様の体、流されたイエス様の血をいただいて救いの確信を強められます。

わたしは罪深い者です、と言ってひれ伏したペテロは、イエス様の前にいることが辛くなりました。わたしから離れてください、と言っています。しかし、イエス様は「恐れることはない」と言われます。イエス様は罪びとであるペテロを受け入れ、ご自分の犠牲によって確かに赦してくださいます。ペテロは罪びとですが、イエス様はペテロを罪から生け捕りにして救い出すために来てくださったからです。

ひれ伏したそれまでのペテロはある意味でそこで死にました。そして新しい使命をいただきました。イエス様は「今からのち」と言われました。罪赦されたのち、ペテロは新しい使命に生きます。同じペテロです。しかし、罪深いペテロに死んで、新しいペテロとして生きるのです。

私たちの毎日は楽しいことばかりではありません。願い通りにならないことがあります。自分で選んだわけではないのに自分に課せられている様々な責任があります。健康上の制限があったり、将来の不安があります。人と話をしても、心では人の話を聞く余裕などないときもあります。イエス様はご自分がおられることを示してくださいます。イエス様は何度も私たちに会いしなおしてくださいます。それで私たちは、置かれたところで喜ばずにいる自分の姿を知ります。ペテロは魚がとれなかったという現実になだれていましたが、イエス様によって不思議な大魚を経験したとき、そこで救い主イエス様にはじめて向き合うのです。私たちも今、暮らしの中に来てくださっているイエス様に向き合います。

イエス様は、私たちの古い罪深い性質にとって都合のよいようにと環境を変えてくださるのではありません。むしろ、私たちが罪深い自分に死んで、新しい使命に生きるようにしてくださいます。自分中心な私のみままで何とかやっていけるようにと、まわりを変えてくださるのではありません。むしろ私たちの罪を赦して、私たちに新しい命を与え、私たちをかえてくださるのです。

ペテロは「今からのち、あなたは人々を生け捕りにする」と言われました。これまで魚をとってきました。ペテロはイエス様によって罪から生け捕りにされ、罪と罪の裁きや責めから自由

にされました。「今からのち」ペテロは、イエス様にしていただいたように人々をイエス様にあつて罪から生け捕りにして救う働きをするのです。

イエス様は今あなたが暮らしている状況を変える前に、あなたを変えてくださいます。あなたの目を開き、イエス様の赦しをいただきます。そして、神様に赦された者として歩みます。神様に大切にされ、すべての必要を満たしてくださる神様に信頼する安心を得た者として、イエス様があなたにしてくださったように今度はあなたが人々に仕えて歩むのです

新しい心は、自分の願い通りにならないことをイエス様にあつて忍耐します。そこで感謝なことを見つけて、接する方々と共有します。課せられている責任があれば、人に対してではなく主に対してするように誠実な思いを込めて行い、自分にここで求められていることの本質を探し当て、人々に与えます。健康や将来の不安があれば、主イエス様が導き支えてくださる安心をいただきますから、どうすればよいかという手立てを落ち着いて考えます。ペテロも仲間たちもすべてを捨ててイエス様に従いました。これまで仕事上のプライドや気持ちの上で強いこだわりやかたくなさがあったら、それを赦してそこに新しい柔らかく取り扱われやすい心をつくってくださるイエス様に、恐れることなく従います。イエス様に従って恐れることなく変えられていきます。

そこで網を捨てて従ったのは、ペテロだけではなかったようですね。そこにいた兄弟も仲間もペテロに語られたイエス様のことばを聞き、ペテロとともにイエス様のみわざに驚き、ペテロとともに悔い改めて、ペテロに語られた「今からのち、あなたは人々を生け捕りにします」という呼びかけに答えました。あなたがイエス様に罪赦され、あたらしい使命に生きる時、おなじイエス様のみわざがあなたの身近にいる仲間や家族にもイエス様によって起こされていきます。仲間たちも自分から進んで、何もかも捨ててイエス様に従っていきました。

私たちは頼りにならない自分の常識や知恵や経験に土台をおいてものごとを判断します。運にまかせて歩むと魚が一匹もつれないような人生の失望が待っています。しかし、イエス様の御言葉に従って人々を生け捕りにする働きをする時、そこではいつも網がはちきれんくらい、舟が沈みそうになるくらいの魚がいっぱい与えられます。

イエス様は日常の中で私たちに働きかけてふたつのことをしてくださいます。私たちが罪びとであることを示して悔い改めに導いて、罪を赦してくださいます。さらに、私たちを新しい使命に導いてくださいます。私はイエス様によって罪に死んで、新たにされて、おかれたところで豊かに生かされます。そしてその姿を見ている家族や仲間を、イエス様は確かに導いてくださいます。

すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」ルカ 5:10b

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讚美歌 316 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 主よ、試み受くるおり 祈りたまえ 我がために 心恐れ 迷うときも 愛の御顔 向けたまえ
- 2 世の宝は 目を奪い 世の誉れが 誘うとき 十字架の主のみ苦しみを示したまえ 我が胸に
- 3 煩わしき世の業に やるせもなき 悲しみに なお潜める 慈しみを 見させたまえ 過たず
- 4 塵より成るこの我が身 塵に帰るその時も 主よ、御顔を仰ぎ見つつ 行かせ給え 御前へと
アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわにたえせず み栄えあれ、み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏